

# 十小だより



令和7年度11月号 No. 633

令和7年10月31日発行

武蔵村山市立第十小学校

校長 今井 一馬

## 【教育目標】

—くすの木のように優しくたくましく—

- ・やる気いっぱい（自分で考える子）
- ・笑顔いっぱい（自分も友達も大切にする子）
- ・力いっぱい（丈夫でたくましい子）

【<http://www.city.musashimurayama.lg.jp/school/mmced10s/>】

「人を大切にする心」が広がる学校でありたい」

生活指導主任 松下 剛

秋を通り越して、朝夕の風に冬の気配を感じるようになりました。登校してくる子供たちの表情にも、4月のころとは違う落ち着きや自信が見られるようになり、日々の成長をうれしく感じています。

今年度の始業式で、私は子供たちに「人を大切に」という話をしました。相手の気持ちを考えて行動すること、困っている人に声をかけること、感謝の気持ちを言葉にすること——そうした一つひとつの行動こそが「人を大切にする」ことにつながります。そしてそれは、相手だけでなく、自分自身を大切にすることにもつながります。

半年がたち、子供たちの姿を見ていると、その言葉が少しずつ形になってきているように感じます。

たとえば、登校時、友だちに「おはよう」とあいさつをしている姿。忘れ物をした友だちに、自分の道具を貸してあげる姿。こぼしてしまった牛乳を一緒に拭いてあげている姿。低学年の子が困っているのを見つけて、上級生が優しく話を聞いてあげる姿……。そうした場面に出会うたびに、子供たちが互いを思いやる力を少しずつ育てていることを実感します。

一方で、まだまだ課題も見られます。言葉遣いが乱暴になったり、友達を傷つける言葉を使ってしまったり、相手の思いに気付かなかつたり——。他者を思いやる力が育ちきっていない場面もあります。

意見がぶつかったり、感情の行き違いが起きたりした時に、私たち教員は、その中で「どうすればよかったのか」「次はどうしようか」と一緒に考える時間を大切にしています。他者との関わり方を学ぶ大切な機会です。失敗を通して相手の気持ちに気付けたとき、子供たちは確実に成長しています。

先日の運動会でも、仲間と励まし合いながら最後まで取り組む姿や、声をかけ合って準備を進める姿に、「人を大切にする心」がしっかりと根づいてきていることを感じました。

これからも、生活の一つひとつを大切にしながら、「できた」「成長した」と実感できる瞬間を積み重ねていけるよう、教職員一同で子供たちを支えていきます。

御家庭でも、子供たちの小さな変化に気づき、温かい言葉をかけていただけると幸いです。学校と家庭が同じ方向を向いて、子供たちの「人を大切にする心」を育てていけたらと思います。